

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520837

研究課題名(和文) 紀の川流域における中世荘園の地域環境史的研究

研究課題名(英文) Regional environment historical research of an estate the medieval times in the Kinokawa valley

研究代表者

高木 徳郎 (TAKAGI, TOKUROU)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授

研究者番号：00318734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、11世紀から16世紀頃にかけて、現在の和歌山県海草郡紀美野町付近に存在した紀伊国神野・真国荘地域の詳細な現地調査に基づき、その歴史的景観を明らかにするために行われた。本研究では、水利灌漑の現状記録、および生業に関する聞き取り調査などを行った上で、それらの成果を文献史料から窺えるこの荘園の歴史過程の中に位置づけ、改めてこの荘園が地域環境の中でどのように適格的に展開を遂げたかを考察することが出来た。また、この荘園の景観を描いた著名な荘園絵図の解釈にも、新たな知見を加えることが出来た。なおこれらの成果の詳細については、『紀伊国神野・真国荘地域総合調査』として報告書にまとめ、刊行した。

研究成果の概要(英文)： This research, based on the detailed field survey of Kono-Makuni-no-syo area which existed near present Kimino-cho, Wakayama-ken, was done in order to clarify the historical scene. By this research, after holding an interview about present condition record of water supply irrigation, and an occupation, those results were able to be positioned into the history process of this estate about which I can hear from literature historical records, and it was able to be considered how this estate accomplished development in conformity in regional environment anew. Moreover, new knowledge was able to be added also to the interpretation of the prominent estate pictorial map describing the scene of this estate. In addition, about the details of these results, it collected into the report as "Kono-Makuni-no-syo area synthesis investigation", and published.

研究分野：日本中世史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：荘園調査 景観 環境史 開発 生業 水利灌漑

1. 研究開始当初の背景

和歌山県北部の紀の川流域は、高校の教科書や日本中世史の概説書に紹介される著名な荘園が点在し、伝統的な農村景観や共同体的慣行がよく残存していることから、これまでも多くの現地調査が行われてきた。しかし、当該の地域は、紀伊国栲田荘絵図・紀伊国井上本荘絵図・紀伊国神野真国荘絵図などの著名な荘園絵図によって、当時の荘園景観を視覚的に理解できる地域としてもよく知られている。しかし、栲田荘については一定の荘園調査の積み重ねがあるものの、その他の二つの荘園では、絵図の景観を復元するような十分な荘園調査がまだなされておらず、とくに神野・真国荘の故地である紀美野町域では、過疎化・高齢化による耕地の耕作放棄が進む現状に鑑みれば、早急にこうした荘園調査が行われる必要があると考えられた。また、紀の川流域に限らず、全国各地で行われてきた荘園調査は、文献史料と地名・灌漑水利の現況との照合作業を中心に進められたために、荘園景観の復元を目的としながらも、本来多様な生業の要素が反映されているはずの荘園景観から、水田景観のみを抽出する結果となり、水田景観を以て荘園景観とみなすかのような一面的な理解に陥る弱点を有していた。

さらに、近年、環境問題への社会的関心の高まりの中で、棚田や里山への関心が急速に高まりつつあるが、紀の川流域は「棚田」地名の初見史料がある地域であり、紀美野町の中でも中田・梅本地区および三尾川・赤木地区などは、壮大かつ良好な棚田景観が展開している地域である。棚田には、耕作が維持されることによる国土保全機能や洪水調節機能があると言われているが、その他にも、棚田を維持するための水利施設を含め、土木遺産や文化的景観としての高い価値があると考えられる。しかし、紀美野町内の前述の棚田地域では、耕作者の高齢化や後継者不足により、そうした価値ある棚田の耕作放棄が進み、獣害や地滑りなどの深刻な被害も現実に発生している。

2. 研究の目的

本研究は、上記の背景をふまえ、紀美野町が有する歴史的・文化的遺産としての神野・真国荘地域の歴史的・文化的景観を、できる限り後世に伝え、記録保存を図るために行われた。そこでまずは、現地に残る荘園時代の痕跡を出来る限り詳細に記録にとどめるため、これまで研究代表者らが培ってきた荘園調査の方法に基づき、厳密な

現地調査を行う必要がある。

そのうえで本研究では、景観を人間の生業活動の反映、人間による環境変化の結果と捉える環境史的視点から、荘園の開発史を、植生の変化や地目の多様化という視点を含めて再構築し、既往の荘園制成立史の研究に対して新たな論点を提示することを目的とする。具体的には、従来同様の水利灌漑調査に加え、植生調査・民俗調査により、この地域の生業のあり方を歴史的に跡づける。中山間地域に位置する神野真国荘は、山林を伐り開いた傾斜地に棚田を造成し、開発を進めてきた経緯が想定されることから、まずはその初発と歴史的段階をおさえ、荘園の成立＝立荘の問題を在地動向をふまえて再構築することとしたい。

3. 研究の方法

本研究では、大きく分けて二つの調査を平行して行う。一つは、水利灌漑調査・通称地名調査・文献史料調査および未指定文化財の所在調査であり、もう一つは年中行事や生業に関わる聞き取り調査・棚田背後の山林での植生調査である。

前者の調査としては、和歌山県紀美野町福井地区において、町役場および地元の農業者の協力を得て、水利灌漑に関わる慣行などの聞き取り調査、水田一筆ごとの水がかり調査(2500分の1程度の地形図に記入)、通称地名の分布調査(同前)を行うとともに、神野真国荘絵図および神護寺文書の調査を行う。

一方、後者の調査としては、紀美野町福井地区を中心としつつ、紀美野町全体を視野に収めて、地元在住者への聞き取り調査と年中行事の記録、植生の観察と収集調査を行う。

4. 研究成果

27回に及ぶ現地調査によって、福田・野中・安井・神野市場・赤木・三尾川・今西・真国・志賀野・小川・中田・梅本地区について、水利灌漑状況の記録ができ、荘園景観を復元する基礎資料が得られた。また、神野・真国荘地域全域にわたる生業に関する聞き取り調査を行うことが出来た。植生に関しても一定の資料収集ができ、植生図を作成することが出来た。

このうち小川地域は、神野・真国荘地域の西端部に位置し、南から北に向かって貴志川へと流れ込む梅本川の流域に広がる地域である。地域の南端には生石山(生石ヶ峰、標高八七m)が聳え、その北麓から貴志川までの南北約六km、山城の痕跡が残る鶯ヶ巣山(標高三九四m)と黒沢牧場の名で知られる黒沢山(標高五九m)の東麓との間に広がる東西約三・五kmの間に細長く広がる範囲をおおよその範囲とする。

この地域は、歴史的には、神野・真国荘と

石清水八幡宮領の野上荘との境界地帯であるだけでなく、江戸時代においては高野寺領と紀州藩領の、また戦後においても美里町と野上町の境界であるという、独特の歴史をもった地域である。この地域は、地形条件の上から大きく南北二つのエリアに分けることができ、両地域のちょうど中間に、この地域の宗教的な中核として大きな位置を占めてきた小川八幡神社が鎮座している。この小川八幡神社より北のエリアは、福井地区とも呼ばれ、梅本川が形成する、この地域では比較的広い谷底平野にまとまった水田地帯が広がっている。しかしこの梅本川は、歴史的には、高野寺領と紀州藩領を画してきた境界の川であり、中世以来、灌漑用水の利用や土地の帰属をめぐる紛争の絶えない地域であった。梅本川より東は、江戸時代、高野寺領福井村に属しており、明治十二年(一八七九)これを引き継いで東福井村が成立した。一方、梅本川より西は紀州藩領福井村に属し、同じく明治十二年、これを引き継いで西福井村が成立した。両村は明治二十二年に成立した小川村に吸収され、同村の二つの大字となったが、戦後の昭和三十年、「昭和の大合併」によって小川村が東野上町・志賀野村と合併して野上町が成立すると、東西の区別を解消して福井という一つの大字となり、さらに平成十八年(二〇〇六)「平成の大合併」によって、野上町が旧高野寺領を中心とする美里町と合併して紀美野町が誕生した。梅本川で画されていたかつての二つの村は、こうして大きなわだかまりを乗り越えてひとつの町となったわけだが、本調査での聞き取り調査に寄れば、いまだに川の東西では、簡単には乗り越えられない心理的な障壁が存在しているように見受けられた。

また、小川八幡神社よりも南のエリアには、ほぼ近世村をそのまま引き継ぐ中田・梅本・坂本・奥佐々の四地区(大字)が存在し、奥佐々のみは旧・紀州藩領、他の三地区はすべて旧・高野寺領の村であったが、明治二十二年、それぞれが合併して小川村が成立した(この時、東福井・西福井村も同時合併)。四地区とも、北の福井地区に比べると、かなり標高の高い山間集落の様相を呈している点で共通している。そしてこれらの集落の間を縫うように、西の川・中津川・梅本川・坂本川という四本の小さな河川が流れ、前述した小川八幡神社のごく近辺において順次合流し、梅本川となって福井地区方面へと流れ下っている。このうち、梅本・中田地区は、生石ヶ峰の北麓に広がる山間集落で、谷が幾重にも入り組んだきわめて複雑な地形が展開しており、かつてはその至るところに棚田が点在する「棚田の村」であった。かつては、最も高いところで標高約四八メートル、最も低いところで標高約一二メートルのところに水田が存在し、その間に地形図上で数えるだけでも千枚ほどの水田があったが(一九八二年撮影・測図の野上町全域平面図でカ

ウト) 耕作放棄が著しく進んでおり、現在も耕作が維持されている棚田はその一割程度ではないかと思われる。

この棚田を灌漑する主要な水路として構築されているのが、竜王水である。竜王水は生石高原北麓の中田地区字瀧山から流れ出る沢水に取水し、途中一ヶ所で自然の谷水に落としつつ、計約一・六キロメートルを導水する用水路である。水路の末端は、大観寺西側に広がる棚田(中田の棚田)へと流れ落ちる中田谷川へと落ちており、この棚田への直接的な灌漑は、この谷水に堰を構築して導水している。

この竜王水は、竜神信仰に基づく水神への信仰と密接に結びついた形で、水利組合による水路の維持・管理が行われている点に大きな特徴がある。現在では耕作放棄により組合を構成している家は三軒程度にまで激減しているが、水源となる沢水に取水する地点には、竜王社が祀られており(【写真 20】)、近年までこの地で年二回(正月・七月)の祭祀が行われていた。しかし、高齢化によりこの水源地付近での祭祀の維持が困難となり、現在では少し集落に近い位置に竜王社の小祠を移し(【写真 12】)、そこでの祭祀が続けられている。

水路は、水源付近では表土を溝状に素掘りしただけのきわめて原初的な形態をとっているが、その後大部分の区間は主にプラスチック製の樋管を用いて導水している。これは導水区間のほとんどがきわめて急峻な斜面であるためと思われるが、もともとこうした樋管(もちろんその材質は古くは竹など木製のものが用いられたであろう)を利用した形態であったのか、災害などにより恒常的な水路が破損した後、復興していないから応急的にこうした形をとっているのかは不明である。現在の水利組合院への聞き取り調査では、話者の知っている限りでは昔からこのような樋管を利用した水路であったとのことであった。途中、小さな谷川を越えるところが一ヶ所あるが、樋管を利用しているため、比較的容易に用水を渡すことができている。但し、現状では、この谷より水源地までの区間では、樋管自体が破損している箇所があり、事実上、こちらの谷水が水源となってしまっている。後に述べるように、竜王水の起源は相当に古いと考えられることから、文化遺産・土木遺産としての価値が高い水路と認められる。行政当局による早急な復旧と恒久的な維持策の確立が求められる。

以上、小川地区に限定して成果を述べたが、他の地域の成果も含めて、詳細は下記、発表論文のうちの図書欄に示した『紀伊国神野・真国荘地域総合調査』において示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

高木徳郎「15～16世紀における棚田の展開」(2014年5月10日、シンポジウム「中世を終わらせた生産革命」於・慶應義塾大学三田キャンパス)

〔図書〕(計 1 件)

高木徳郎・海津一郎・藤井弘章・土山祐之・貴田潔・坂本亮太『紀伊国神野・真国荘地域総合調査』(2014年3月、科研費報告書)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高木徳郎 (TAKAGI Tokurou)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授

研究者番号：00318734

(2) 研究分担者

海津一郎 (KAIZU Ichirou)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号：20221864

藤井弘章 (HUJII Hiroaki)

近畿大学・文芸学部・准教授

研究者番号：00365511

高須英樹 (TAKASU Hideki)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号：90108001

(3) 連携研究者

()

研究者番号：